

歴博 暮らしの植物苑だより

第96回『暮らしの植物苑観察会』3月24日(土) 13:30~ 暮らしの植物苑

「梅と桃と桜」 澤田和人 (本館研究部情報研究系)

第97回『暮らしの植物苑観察会』4月29日(日) 歴博みどりの日(入苑無料) 13:30~
暮らしの植物苑

「暮らしの植物苑と下総の森」 鈴木三男 (東北大学植物園)

今週の見どころ: <http://www.rekihaku.ac.jp> (毎週更新)

ほかに苑内で見られる花

- サザンカ・ツバキ: ハルサザンカ・ヤブツバキ・ヒメサザンカ・ヤクシマツバキ・ツバキ・侘助
- ウメ: 唐梅・白梅 ロウバイ: ソシンロウバイ ミツマタ: ニオイミツマタ
- マンサク: シナマンサク・ベニバナトキワマンサク ダンコウバイ ナバナ スイセンなど

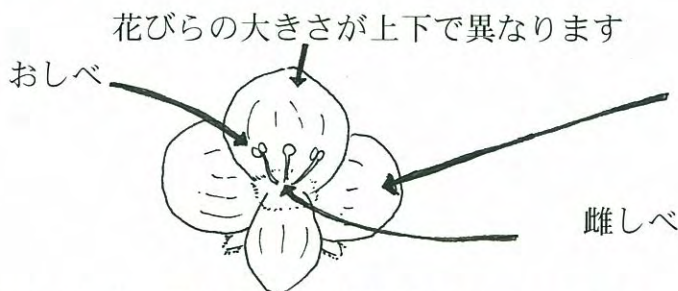
季節の伝統植物 **伝統の桜草**

4月17日(火) から 5月6日(日)

江戸時代後期に野生種のなかから、色や形の変った花を探し出して栽培したのが始まりといわれます。幕末には桜草を雛壇飾りに色合いよく並べ観賞する、桜草雛壇飾りの観賞法が確立しました。展示では復元された桜草雛壇飾りや、江戸時代から続く品種のほか、近年育種された八重咲きの品種、無弁花の桜草をはじめ展示いたします。

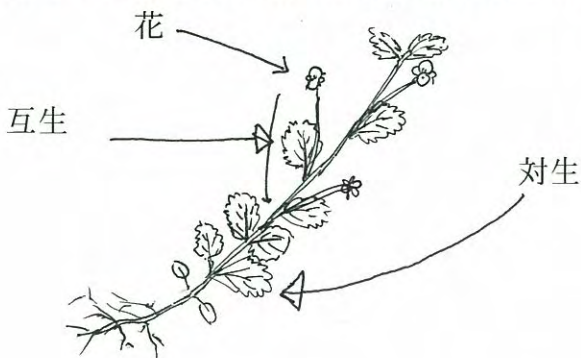


オオイヌノフグリをよく見てみよう



花びらの大きさは左右では同じです

葉のつき方: 夏に発芽し葉が対生につくますが、花蕾がつく頃から互生に変わってきます



オイヌノフグリ (ゴマノハグサ科クワガタソウ属)

ユーラシア・アフリカ原産の2年草で、明治時代に入ってきた帰化植物です。日の当たっているときだけ花が開きます。触ると花びらが落ち、その時に受粉します。葉は始めは対生していますが、花が咲く頃には互生になります。イヌノフグリは淡桃色の花で、いまでは殆ど見る事が出来なくなりました。



ホトケノザ (シソ科オドリコソウ属)

柄のない葉が対生し、蓮座に見立ててこの名があります。葉が段々になってつくことから三階草とも呼ばれます。紅紫の細長い舌形花が輪生します。春の七草のホトケノザはキク科のコオニタビラコのことです。



コハコベ (ナデシコ科ハコベ属)

畑や道端に普通に見られる白い小さな花で、ハコベは茎が緑ですが、コハコベは茎が暗紫色を帯びます。ハコベの仲間は温度によって花が開きます。花は開花時には上を向いていますが、成長すると下を向き、熟して開裂するときには上を向いて種子を遠くまで飛ばします。



ヒメオドリコソウ (シソ科オドリコソウ属)

ヨーロッパ原産で、明治時代に入ってきた帰化植物です。2年草で道端や空き地のよく見られます。葉は対生し、茎の上部の葉は密集し、赤紫色を帯びます。葉のつけ根に桃色の小さな唇形花をつけます。



ボケ (バラ科ボケ属)

中国原産の落葉低木で、一本に紅白の花が混じりません。たくさんの園芸品種が作られています。花はクサボケに似ていますが、クサボケは地下茎状に横に伸びた幹から枝を出しますが、ボケは幹がむらがって上向きに伸び2mにもなります。



オオイヌノフグリ・ホトケノザ・ヒメオドリコソウ・コハコベ 苑内いたるところ

